

学校と地域をむすぶ

かけはし

大津市立葛川小中学校
地域コーディネーターだより

NO. 2

2017. 7. 6

地域の自然や人々と触れ合って

6月初め、4人の中学1年生が葛川少年自然の家に宿泊し、ふるさと体験学習を行いました。3日間通じて、地域の自然や人々と触れ合い、「ふるさと」の良さを知る体験活動が繰り広げられました。

1日目は、「間伐体験」。森林組合の織田さんにお世話になり、平の山に行きました。林道を少し歩くと、道の両側にはスギ林が現れました。スギの木立の中に入るとひんやり。背の高いスギを見上げます。織田さんからお話を聞きました。隣り合うスギの木は横に枝をはっていき、上へ上へと伸びていき、こんな細く高いスギになったこと。木をまびく「間伐」を行うことにより、日が差し込んで残った木が生長しやすくなること。「今日倒す木はこれです。みんなで力を合わせて倒してください」と指差された背の高いスギの木。まずは、織田さんがはしごを木に立てかけ、命綱をつけてどんどん上り、下から8mぐらいの高さのところにロープをくくりつけてくださいました。いよいよ、木にのこぎりを入れます。「まっすぐ水平に引っ張ると

いいよ」とアドバイスをもらい、交代しながらのこぎりでギコギコ。ゆっくりと慎重に動かします。どんどん切れ目が入っていき、あともう少しのところ、次の作業です。滑車にかけたロープを引っ張り木を倒すのです。4人がロープに手をかけ、ふんばりました。そしてかけ声をかけ力を入れ始めた時、ミシミシという音。「えっ？木が傾いていく！」。ゆっくりと木が倒れていきました。昨年、町居で間伐体験をした現中学2年生は、ロープを引っ張ってもなかなか倒れず、奮闘していました。それを聞いていたので相当の覚悟をしていましたが、思った以上にとっても早く木が倒れたのでびっくり。町居で間伐した木はヒノキで、固かったため時間がかかったのだという話を聞きました。木の種類によってこのような違いがあることも知りました。くっきりと年輪の入った切り口には、日が差し込み明るくなっていました。「間伐するとこうなるんだ」と実感しました。切り口がまっすぐ平らで、「上手にのこぎりを入れたねえ」とほめてもらいました。次は、木の皮をはぎます。ドライバーやはさみで木の皮を持ち上げ、手で引っ張ると、きれいに皮がむけます。中からはつるつるの薄茶色の木。さわってみるとしっとりとして水に濡れています。木はこれだけ水を蓄えているのだと思いました。最後は、もう一度のこぎりを持って丸太に切ります。調子よくのこぎりを引っ張ります。「この丸太で何を作ろうか」という



いろいろ考えます。「トーテムポールおもしろそう！」と思いをふくらませます。1本の木を切り倒すだけでも、安全を考え工夫がされていること、木の切り株にはその木の生きていた証である年輪が刻まれていること、切った木の上からは日が差し込むこと、そして、切られた木はまた違う物に作り替えられ私たちのそばにいることなど、多くのことを知ることができました。山から出ると、真っ青な青空とキラキラと光り流れる川の水を見ながら、「カエル!」「アカハラ!」と草むらに生き物を見つける4人。戯れ合う姿がとてもほほえましかったです。

2日目は、伊藤博さんに古地図をもとに寛文の大地震のお話を聞きました。1662年に起きた大地震。町居から梅ノ木にかけて山が崩れて250人以上の方が生き埋めになられたという大きな被害をもたらした地震でした。目の前に広げられた古地図は、この地震から200年以上もたって描かれたものであるにもかかわらず、山が崩れて川をせき止めている様子がはっきりと描かれています。また、町居のお寺の宝塔が見つかった話も聞きました。宝塔が埋まるぐらいのところまで土砂がきていたということがわかりました。地震は予測のつかないもので、いつ起きるかもわかりません。日常から心得ておく必要性を教えてくださいました。古地図には、明王院や地主神社も描かれていました。859年に相応和尚がつくられた明王院。これを機に葛川は開けていったということです。この明王院には足利氏もお参りに来られたことや、織田信長が浅井・朝倉氏に追われて、この街道を馬で逃げていった話を聞き、日本の歴史に登場する人物がこの葛川と深く関わっていたことを知り、歴史を身近に感じるとともに、葛川には伝統があるのだと改めて思いました。



ふるさと体験学習は3日間とも最高のお天気に恵まれましたが、最後の日もこれ以上のものはないぐらいのよいお天気でした。その中、寿会の方々とグランドゴルフを楽しみました。キャンプ場のグランドゴルフのコースは、緑の芝、アップダウン、長い距離など本格的なコースでした。寿会の8名の方と4人の中学生が2チームに分かれてプレイしました。グランドゴルフは小学校の時からやっているのだから、かなり自信はありましたが、それでも寿会の方のプレイには脱帽でした。快音とともにホールポストめがけて飛んでいくボール。カーブしながらホールポストのそばに近寄るボ



の瞬間も見逃しませんでした。「距離が長いから思いっきり!」「ええここに飛んだよ」と声をかけてもらい、中学生も真剣です。「やっぱり何回もやってるし、うまいなあ」とほめていただきました。2ゲームたっぷり楽しんで終わりました。「楽しかったねえ。またやろうね」というお言葉に次回を楽しみにしながら終わりました。

3日間のふるさと体験学習。地域の自然や人々と触れ合い、いろいろなことを教えていただきながら、多くのことを学ぶことができました。お世話になった地域の方々、ありがとうございました。

全校で久多にレッツゴー

6月6日、さわやかな好天のもと、小学生は全校で久多に行きました。各学年、活動場所や内容は異なりましたが、半日を通して久多の人々や自然と深く関わりながら多くの発見をすることができました。

1・2年生は、上の町から自活センターに向かって歩きながら、「町たんけん」です。久多に住むお友だちに案内してもらいました。川に入って生き物を見つけたり、道端に咲く草花をとってブーケにしたりしました。流れる音や鳥の鳴き声、まぶしい木々の緑を体全体で感じながら久多を散策しました。

3・4・5年生は、川の学習です。その一つは、昔、いかだに乗って川を下っておられた小阪源逸さんのお話です。トラックの入ってこなかった時代、山から切り出された木々は川の水を使って運び、売りに出されていました。木を組み連結させて豊富な雪解け水を使って川に流します。それに乗っておられたのが小阪さん。川合まで乗っておられたそうですが、時には梅ノ木まで乗られたこともあるそうです。



途中難所が何か所もあり、急な流れや深い淵では、いかだの先が水の中に突っ込んで、腰までどっぷり水につかったり、川の中に落ちてしまったりするなどこわい思いを何度もされてきたそうです。道ができて自動車が走る時代になり、今やいかだを見ることはありませんが、ミニチュアいかだを作っておいてくださいました。それを見せてもらいながら、いかだとはどんなものかを知ることができました。いかだをどうやって作っていたのかも知りたいことの一つでした。ミニチュアいかだを解体させてもらい、自分たちの手でもう一度いかだに組み上げました。木にあけられた穴へのひもの通し方やくり方、同じ太さの木を組むこと、後ろにいくほど幅を広くすることなどを教えていただきました。そして完成したいかだ。実際に川に行って流してみました。途中で石に当たって



止まったり、水の流れで速度が変わったりするのも見ながら、いかだに乗って川を下っていくのはとても危険であり、大変な仕事であったことを感じました。山の木を運ぶために川の水が利用されていたことから、山と川のつながりを知ることができました。貴重な体験を聞かせていただいた小阪さん、ありがとうございました。この後、椎葉さんのご厚意により、アマゴの放流をさせていただきました。なかなか体験できないこの放流に、子どもたちは大喜びでした。ここにも生き

物とつながる川の水のすばらしさを感じました。川の水の温度や流れる水の速さ、深さなどを場所を変えて調べたり、水の流れ方を観察したりするなどの調査も行いました。

6年生は、人の生き方に学ぶ「夢プロジェクト」の学習です。カフェレストラン「猪鹿村」の椎葉直美さんのお話を聞かせていただきました。仕事の話の切り口にして、インタビューをしながらたくさんのお話を聞かせていただきました。「つらい時でも楽しいことを考えて乗り越える」という言葉が印象に残りました。そして、久多にたくさんの方が来てくださることを考えてお仕事をされていることを知りました。その後、写真家の宮田さんといっしょに久多の自然の中を歩きながら写

真を撮りました。あの景色を撮ろう、あの建物を撮ろうと思ってカメラを向けるのではなく、「これいいな」と心の動いたものを撮ったらいいよという宮田さんのアドバイスです。道端の草花やキラキラと光る川の流れなど心ひかれるものはたくさんあり、その都度シャッターを切っていました。レンズを通して見るとまた見え方も違ってきました。一年間通して葛川や久多のいろいろな場所で写真を撮り、これをもとにパンフレット作りをする予定です。

自然の中でいっぱい体験

小学校3・4年生は葛川少年自然の家で1泊2日の「ふるさと体験学習」を行いました。2日間よいお天気に恵まれ、自然にどっぷりつきりながら、さまざまな体験活動を行うことができました。

三の滝ハイキングでは、自然の声に耳を傾けながら、いろいろな生き物や植物を見つけました。キーホルダーを作るための木の枝も拾いました。山から下りてきたら次は川。プランクトンネットを使ってたくさんの種類の水生昆虫を見つけました。自然の



家の先生にその名前を教えてください、それはきれいな水に棲むものだということを知りました。小さな小さなイワナも採りました。川で泳いだり、変わった形やきれいな色の石を見つけたりもしました。川



の後は、竹三昧。葛野常喜さんに切っていただいた竹を節ごとにのこぎりで切ります。半分に割って次の日のカレーライスを入れる器の完成です。細く切ってもらった竹の先を小刀でけずります。これはお箸に。アマゴの串焼きに使う串も作りました。夜はキャンプファイヤー。ここ何年間も、雨に降られて屋外でキャンプファイヤーができていませんでしたが、今年はお天気の心配は全くなし。広い芝生のキャンプファイヤー場で行うことができました。燃え上がる炎を囲みながら、招待した小中学校の先生や職員の方々といっしょにゲームを楽しむことができました。大きな声を出したり走ったり歓声をあげたり、盛り上がりました。



2日目は、野外炊事です。アマゴをとって串にさします。命をいただくことに心が揺らぎましたが、感謝しながらおいしくいただきました。前日に作った竹のお椀にカレーライスをよそいます。思った以上にたっぷり入って、普通のお皿で食べるカレーとはまた違った味わいがありました。前日の



ハイキングで採ってきた木の枝でキーホルダーを作りました。自然の中で、自然とたわむれながら過ごした2日間。学校ではできない体験をすることができました。

